須賀川市立長沼中学校・令和元年度学校通信

長中だより

第 ８ 号（令和元年８月２３日発行）発行者 校長 小貫崇明

【８月の生活目標】
○日常生活を振り返り
　自分を成長させよう
→生活リズムの回復
→あいさつの徹底
→交通安全の徹底

○奇跡のあじさいとともに～熊本県･住吉中が長沼訪問～

８月５日（月）、遠く九州・熊本県から宇土市立住吉中学校の皆さん（生徒７名、教師２名）が長沼を訪問してくださいました。はじめに、長沼中での交流会（学校紹介やクイズ）をしました。それぞれの学校の特色を楽しく学びあいました。制作途中のねぷた見学などをしていただきました。その後、奇跡のあじさいの生まれた場所・藤沼湖に移動し、まずは、長沼のそば名人の手ほどきで、長沼中の生徒と一緒にそば打ち体験をしました。もちろん打ったそばはすぐにざるそばにしてみんなで食べました。熊本では、そばよりもうどんを食べるといった食文化の違いなども知ることができました。その後、藤沼湖畔の眺めの良いところに、交流の証としてあじさいを湖畔に植樹しました。植樹後のバーベキューの頃には、長沼中生と住吉中生がかなり打ち解け、交流が深まりました。長沼中からあじさいを最初に送った当時の長沼中生徒会のメンバーや一昨年度熊本を訪れた高校生も参加し、楽しいひとときを過ごすことができました。この交流、この絆を、これからも大切にしていきたいと思います。

○少年の主張大会～立派な主張、そして立派な司会～

８月１日(木)、市民交流センターtette（テッテ）で開催された第１６回少年の主張大会には、長沼中から３年の名古谷慧君が出場しました。反抗期まっただ中の自分を客観的に捉え、素直になれない自分と向き合い、家族への感謝の気持ちを元気よく発表しました。審査の結果は優良賞でしたが、心をこめて発表した本人も、会場に駆けつけたご家族も、賞状以上に大切なものを持ち帰ったようでした。

なお、今回の大会では、全体の進行を本校３年の岡部颯太君、来名ルミナさんの二人が務めました。緊張してはいましたが、大きな行事を最初から最後まで円滑に進行できたことは大きな自信になったのではないでしょうか。長沼中の３人が光り輝く少年の主張でした。

○頑張れ！特設駅伝チーム～応援よろしくお願いします～

連日３０℃を超える猛暑が続いた夏休みですが、長沼中特設駅伝部の練習はその暑さに負けないくらい「熱い」練習が毎朝展開されていました。今年度の参加生徒は、男女合わせて２８名と少なめですが、ともに上位入賞を目指す仲間として、声を掛け合って懸命に走り込む姿に、チームとして「絆（きずな）」の強さを感じました。本番の中体連岩瀬支部駅伝競走大会は、８月３０日（金）、鏡石町鳥見山陸上競技場およびその周辺において開催されます。たくさんの皆様の応援をよろしくお願いいたします。

○特設合唱部が金賞受賞！～今年も地区合唱祭で代表に～

今年度も、各部活動に所属しながらも合唱することが好きな仲間が集まり特設合唱部が結成されました。今年度は、久しぶりに合唱連盟のコンクールに出場する計画で、暑い夏休み中、様々な部活動ごとの大会参加などの制約の中、美しいハーモニーづくりに力を注いできました。

８月２０日、矢吹町文化センターで開催された岩瀬地区小中学校音楽祭（第１部･合唱）では金賞を獲得し、県大会への出場を決めました。緊張しながらも、課題曲「君の隣にいたいから」と自由曲「白い雲」を、心を一つにして美しく歌い上げることができました。２９日（木）の県大会でも、いわきアリオスの大ホールにその美しい歌声を響かせてくれると期待しています。

○ふくしまボランティアフェスティバルで感謝状をいただきました！

８月３日（土）、福島市飯坂町の「パルセいいざか」で開催された「第２２回ふくしまボランティアフェスティバル」において、長沼中学校が県社会福祉協議会長様から感謝状をいただきました。本校生徒会の高久元君と深谷朋花さんが参加してきましたが、県内の様々なボランティア活動について知ることができたこと、たくさんの方々から「長沼中はどんなボランティアをやっているの？」などと興味を持っていただけたことなど、貴重な経験ができました。今回の受賞を励みにして、今後の長沼中生のボランティア活動からますます目が離せませんよ！

★大切にしたい言葉(53)「鳥は空によって生き、魚は水によって生き、落語（噺家：はなしか）は人によって生きる」

須賀川市出身の落語家・桂幸丸師匠が何かのコラムに紹介していた話です。なるほど、鳥は空があるから自由に飛べるし、魚は水があるからスイスイと泳ぐ。そして、落語は様々な主人公（人）が巻き起こす出来事がネタとなり、それを聴く人々の笑いによって落語が成立します。このコラムを読んだとき、すぐに次のような言葉が私の頭に浮かんできました。

「教育（教師）は、子どもによって生きる！」

教師がいくら物知りでも、自分の教科について様々な知識や技術を持っていたとしても、子どもがいなければ、子どもが学ばなければ、子どもが伸びなければ、教育は成立しないのです。子どもによって教師が生かされているということを忘れてはいけないのです。